

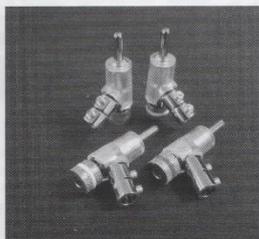


**フルテック FP・201 (R)**  
 ロジウムメッキのYラグ。高剛性構造、α導体パイプ成形、切削加工。オヤイデのSRBNよりも中間帯域はエネルギーが前に出て透明度もさらに高い。低歪できれいなスピードのあるレスポンス。多少、中高域の切れ味がぬるい要素も持っているが、中低域は十分に締まりを効かせ響きはS/Nが高い。高域の冴えという面がもう少しほしい。(総合点80)

**フルテック FP・202 (R)**  
 ロジウムメッキのパナナプラグ。独自のアングル構造はケーブルのストレスが少ない。また、ロック機構が優秀でしっかりと固定される。輪郭描写をしっかりと描き、解像度の高い性能。音は引き締まり、この性能のパナナプラグは貴重だ。クセはなく、低音も力強くコントラストがしっかりと伸びて深い。低音弦楽器はベストではないが大きな欠点はない。旋律が生いきよとしていいる。高域の繊細性は多少ぬるい要素がある。(総合点84)



フルテック CF-201(R) ¥10,370/2個



フルテック FP-202(R) ¥9,438/4個



フルテック FP-201(R) ¥7,985/4個

問:フルテック ☎03-6451-3941

**フルテック CF・201 (R)**  
 フルテックの最高級Yラグ。豪華な作りだ。ケーブル接続部は端子先端と直結する構造。ケースはステンレス合金から切削。カーボンファイバーの化粧仕上げを採用。構造が複雑でやや作りにくいいため、ビギナー向きとはいえない。FP・202と比べ音はスムーズに流れ透明度は高く、輪郭表現はしっかりとS/Nも高い。音の起伏や明るさはわずかに、FP・202の方が上回る。低音は適度に締まり厚い。低音弦楽器はS/Nの高い厚い響きを特色としてコントラストは若干あまい。魅力はあるが、コントラスト、高域特性は多少ぬるい性質をみせる。(総合点80)

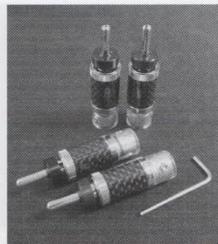
**フルテック CF・202 (R)**  
 最高級CFシリーズのパナナプラグは同シリーズのYラグよりも高価だ。これはロック機構のためのものであるが、性能にはかなりの違いがあるのは接続ピンが薄いことに関係するのではと考える。これは201よりも明晰に音を描き解像度の高い表現で低域から高域まで一貫した輪郭描写力は強力だ。低音は引き締

まり、全体にゆるみ、ボケが発生しない。高S/Nで澄みきり、低音弦楽器の旋律のリアリティはトップクラスである。中低域の音程の変化が明確に伝わってくる。高域特性も繊細な解像度で精密で純度が高い。ポーカーはすっきり冴えて音像は明確にフォーカス。リズム系の切れ味も素晴らしい。(総合点88)

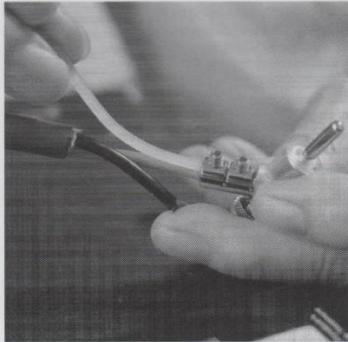
**試聴後記**  
 スピーカーケーブルの端末処理は、筆者のようにテストで接続を換えることが多い状況では必需品だ。裸線では芯線が劣化して同じ条件が得られなくなる。さて、テストの結果だが、ここでは高級製品を主体にロジウムメッキを選択しているため、すべて総合的には80点以上であるため、優秀として使える範囲にある。ただ、厳密には、違いがあり、最も印象に残った製品はフルテックのCF・202(R)であった。フルテックはこうして見るとパナナプラグの方が使いやすいい製品が目につく。Yラグは印象としてはY字接続部が厚めに思う。締めでも滑りやすく、固定感がややあまく感じる。この点は改善の余地

があるだろう。YラグのリファレンスAT6C65は貴重な製品だ。

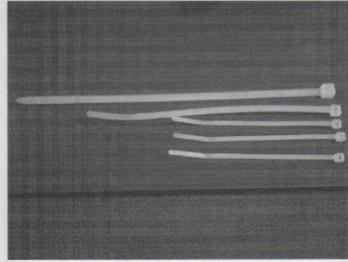
**使いこなしのヒント**  
 中高級端子は無ハンダ、ネジ固定方式を採用している。このためハンダ付けの技術がなくても簡単に装着することが可能だ。ただ、不安に思うのはワイヤーの固定が細いネジであるため、締めつけると燃線は内部で分散してしまい、全ての芯線が最適に端子に接続されているとは思えない。このロスが不安だ。そこで、写真にあるようなスベーパーを併用する方法を使ってきた。これは硬質ナイロン素材を使った結束バンド。各種のサイズがある。端子にワイヤーを挿入したらネジ側に入れて挿入。ネジはナイロン素材を経由して導体を端子に押しつける。余分なナイロン



フルテック CF-202(R) ¥17,820/2個



導体とプラグの間に結束バンドを入れて固定すると、ネジの圧が均等にかかり安定する



結束バンドはホームセンターで購入可能

スパーサーはニッパーでカット。この方法が使えない導体の太さや端子の口径も出てくるが、可能であれば薦められる。フルテックの最高級CFシリーズでは、導体断面積の細かいケーブルでの対策構造を備えてきた。

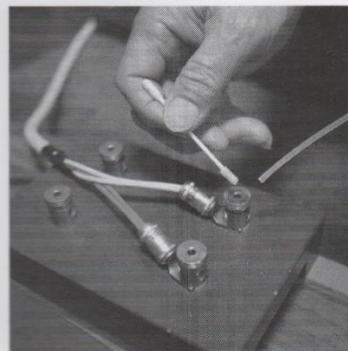
### バナナプラグの接触がゆるい場合

端子との接触がゆるいと音質的に不利だ。ロック機構のしっかりした使いやすい製品ではフルテックのFP・202 (R) がある。低価格ではプレス端子構造のFP200B・R (¥7623 / 4個) が解像度も高くコストパフォーマンスは高い。金メッキ端子とロジウムメッキはどちらが有利か

金は耐蝕性が高く電気抵抗も低い軟性の特性があり極めて安定した物性であるため端子のメッキによく使われる。一方ロジウムメッキは、白金族系の剛性の高い金属で強い耐蝕性がある。これは、ほぼ物性の違いが音質に作用。金の柔らかさが魅力であり欠点でもある。ロジウムは物性が硬質であるため、解像度の高い澄んだ音が特色になる。高度な性能を追求するのであれば、音がゆるむ、なまめることは劣化の一種であって、あえて金メッキを選ぶ必要はない。高純度、高性能を追求してきたのに、金メッキタイプを選択することは、好みとしてはあるが、マイナス要素を使うことは意味がない。



端子との接点がしっかり固定されているかが音質を左右する



バナナ端子は使用していても汚れが付着する。定期的にクリーニングしたい